4月を祝う芸術の旅程

について

4月を祝う芸術の旅程

壁画は、ポルトガルの歴史とアイデンティティを真に映し出す芸術的表現です。全国で展示される各壁画は、1974年4月25日の革命について、芸術を通して知り、文化遺産や観光遺産を探求する機会を訪問者に提供します。

都市芸術は常に時代を映し出す鏡であり、4月25日の革命50周年のお祝いを機に、都市は歴史を記憶し、祝福する新たな色彩が加わります。かつて革命期の壁画が獲得した自由を称えるものであったとすれば、今日でも過去と現在を繋ぐ力強い芸術的表現であり続けています。

革命後、壁画は抵抗の象徴とメッセージを込めた集団的表現の手段として登場しました。50年後、芸術は新たな言語と、民主主義を称えるという変わらぬ決意をもって、街に戻ってきます。

その一例が自由の壁画プロジェクトで、全国14か所で革命をテーマにした芸術の旅へと誘います。それぞれの壁画は、サルゲイロ・マイア大尉や音楽家ゼカ・アフォンソのような重要人物の顔や、赤いカーネーションのようなシンボルを通して、物語を語っています。より広範な芸術的パノラマを求めて立ち止まるなら、いくつかの都市があります。これには、アルガルヴェのファロで開催されるフェスティバルFや、アゾレスのポンタ・デルガダが含まれます。ポンタ・デルガダでは、ウォーク＆トークアーツ・ビエンナーレを通じて、創造性に没入する体験が楽しめます。

街の芸術を通じて都市を知るのが好きな方には、このルートが4月25日を称える壁画へと案内します。

ポルトと北部 (PORTO E NORTE)

ヴァレンサ
では、4月25日の50周年を記念した都市公共芸術サーキットが、街を野外美術館へと変えました。このユニークな街中に点在する壁画ややり取りのできる展示物は、自由と参加について改めて考えさせるとともに、歴史的中心地を彩っています。

現代アートと周囲を見下ろすヴァレンサ要塞の壮大さの完璧なコンビネーションをお楽しみください。サーキットの各作品は新たな視点を提供し、屋外アートを楽しむ人にとって理想的な目的地です。伝統を知り、地元の工芸品や特産品を探索しながら、街の文化

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

遺産を味わいましょう。

ヴァレンサは、芸術、歴史、伝統が街のあらゆる通りや角で出会う、本物の体験を求める人には最適な場所です。

リスボン (LISBOA)

リスボン、アルマダ、セトゥーバルは、革命と自由を祝う壁画で飾られた生きたキャンバスになりました。

リスボンは、街角に歴史が刻まれた街です。ベレン地区では、MAAT（美術・建築・テクノロジー博物館）を訪れてみてください。ここでは現代アートとデザインが創造性の限界に挑戦しています。庭園には、2022年に1974年の象徴的なメルカド・ド・ポヴォ（人民市場）パネルを再解釈した共同壁画「48人のアーティスト、48年の自由」があります。この作品は、テレサ・マガリャンエスやギリェルメ・パレンテなど、オリジナル版に参加した芸術家の一部と、ヴヒルス、ジョアナ・ヴァスコンセロス、マリア・イマジナリオといった新しいクリエイターによって制作され、現代ポルトガル芸術の多様性を反映しています。ベレン文化センターのボルダロII世パネル、アルカンタラやサントス駅の壁画など、ウォーターフロント地区の都市アートをさらにご堪能ください。

さらに、“ 5つの10年、5人の芸術家、5つの壁画 ” イニシアティブは、自由のさまざまな情景を街中に広げ、発見と回顧を誘うルートを作り出しています。それぞれの壁画がユニークな物語を語っています：カンポリーデでは、ポルトガルを変えた革命の日のめざましいシーンが再現され、サン・ジョルジェ城の近く、コスタ・ド・カステロ通りでは、クルーエラ・ダンファーによる壁画}で、抵抗と演劇の役割が壁に描かれ、サンタ・アポロニアのカミーニョス・デ・フェロ通りでは、アリスカによるピンクとブルーの色合いのキャンバスで、平等と知恵 の象徴が強調されています。

ベルナ大通り、カルースト・グルベンキアン財団の近くにいるなら、これもサルゲイロ・マイア大尉に敬意を表している壁画をぜひご覧ください。また、その壁画はかつてのポルトガル植民地の解放運動における女性の役割も強調しています。元々は 2014 年にヴィヒルス、ミゲル・ジャヌアリオ (+maismenos+)、フレデリコ・ドロー、ディオゴ・マチャド （Add Fuel)、ゴンサロ・リベイロ (Mar)によって制作されましたが、最近次の4人の芸術家によってリニューアルされました。すなわちタマラ・アルベス、サラ・フォンセカ・ダ・グラサ（ペトラ・プレタ）、モアミ、マリアナ・マルハオです。

もう一つ注目すべきプロジェクトは、ミゲル・ジャヌアリオ（+maismenos+）がコーディネートした壁画「1,500枚のタイルで祝う4月革命50周年」です。このアイデアの作成には何百人もの人々が参加し、リスボンとポルトにまたがって展開されており、タイルの伝統を利用して、まだ構築中の民主的な未来を象徴しています。

伝統と現代アートのつながりを楽しみたい方には、ポルトガルのタイルが新たな解釈を得ている国立タイル博物館の訪問がおすすめです。また、シャブレガスとマルビラで都市アートの他の実例に触れることもでき、そこでは活気ある文化がイミネンテ・フェスティバルで披露されています。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

アルマダ
アルマダでは、芸術センター「ア・カーザ・アオ・ラド」が展開する「物語を話して」プロジェクトが、壁画アートを通じて世代を結びつけています。若い芸術家たちは、4月25日を生きた人々の物語に触発され、通りを野外展覧会に変身させました。

市内中心部に点在する壁画をぜひご覧ください。多くの芸術家の足跡が感じられます。より実験的な作品を楽しみたいなら、現代美術センター「カーザ・ダ・セルカ」も見逃せません。

セトゥーバル
セトゥーバルでは、チリ人のアレハンドロ・「モノ」・ゴンザレスがコーディネートした「壁が語る物語－壁画運動50年」というイニシアチブが、壁画を中心に異なる世代の芸術家たちを一つにまとめ、創造力とインスピレーションが溢れる中で壁画が生まれました。このプロジェクトは、政治的かつ芸術的な手段としての壁画運動の進化を映し出しています。

地域の芸術的アイデンティティをさらに深く知りたい方は、セトゥーバルのカザ・ダ・クルトゥーラ（文化の家）を訪れるとよいでしょう。ここでは、期間限定の展示が新しい視覚言語を追求しています。

リスボン、アルマダ、セトゥーバルのいずれにおいても、4月の壁画は街を記憶と創造の場へと変えています。

アレンテージョ (ALENTEJO)

歴史と芸術表現が出会う場所をお探しなら、アレンテージョ地方にはぜひ訪れてほしいスポットがいくつもあります。

エストレモスでは、歴史的記憶と地域のアイデンティティが、サンタカタリナ門公園の隣にある記念壁画に表れされています。芸術家のダヴィデ・アルヴェスとミゲル・グスタヴォによって制作されたこの作品は、カーネーション革命における街の役割を浮き彫りにし、騎兵第3連隊（RC3）と2人の地元の人物に敬意を表しています：すなわちアンドラーデ・デ・モウラ大尉とブラース軍曹です。

この街は伝統的な粘土人形で知られており、ユネスコの無形文化遺産に登録されています。解説センターでその例を見ることができます。また、保存状態の良い歴史的中心地や、芸術と伝統を大切にするベラルド・エストレモス博物館もぜひご訪問ください。

さらに北のニザでは、地元の伝統を再解釈したさまざまな芸術表現が見られます。サンタマリア通りは現代的なキャンバスに変わり、ファサードや歩道の装飾は典型的な刺繍やレースにインスピレーションを得ています。町の石製陶器に特徴的な幾何学模様や花柄が独特の視覚的効果を作り出し、その伝統遺産を引き立てています。また、ニザでは芸術家のジョアナ・ヴァスコンセロスによる織物作品「ヴァルキリア・エンショヴァル」も鑑賞でき、これは、卓越した視覚的インパクトで職人技を称えています。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

4月25日の50周年を祝う壁画は、ポルトガルを野外ギャラリーに変え、芸術と記憶が絡み合って革命の物語を伝えています。北から南へ、島から本土へ、それぞれの作品は国のアイデンティティと民主主義精神を反映し、新しい世代のアーティストに声を与え、表現と振り返りの手段としての都市芸術の役割を再確認させています。

ポルトガルの都市の壁に刻まれた色、形、物語の旅で自由を謳歌してください。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com